

#13 指導に迷うコーチほど「真似」から始めよう

こんにちは、
ジュニアサッカー大学、講師のカズです。

今回は
「行動を起こすことの重要性」についてお話しましたが、

今回から4回にわたって「自分らしい指導の軸づくり」について深掘りしていきたいと思います。

この方法は、実際に僕がやってきてメチャクチャ重要な部分なので、詳しく行きます！

現場で指導していると「自分の指導は正しいのか？」「もっと良い方法があるんじゃないか？」と迷うことってありませんか？

僕はいつもそんな感じでした…

他の指導者と議論したり、フィードバックを受ける機会も少ないので、どうしても行き詰まってしまいますよね。

皆さんも『今日の練習、なんか微妙だったかも…』って帰り道に考えること、ありませんか？僕はしょっちゅうでした笑

結論から言うと、指導の質を上げるには「いろんなスタイルを学んで真似する」ことが一番の近道です。

====

なぜ真似から始めるのが効果的なのか？それは、まず指導の幅を広げることで「自分らしいスタイル」が見えてくるからです。

指導スタイルを学ぶ方法は大きく3つに分けられます。

- ①公式な場で学ぶ：ライセンスや講習会で考え方を知る
- ②現場を見学する：他のスクールの雰囲気や進行を体感する
- ③実際に体験する：留学や研修で本場のメソッドを学ぶ

====

僕自身、若い頃にC級ライセンスを取得しましたが、そこで日本サッカー協会がどういう軸で指導しているかが分かりました。

「ちなみに B 級は『協会の推薦が必要？ということもあり、めんどくさそうだな』と思って敬遠してました…（今思えば、ただの言い訳でした笑）」

その後、スペイン系のサッカースクールで指導する機会があったんですが、コーチのテンションや選手との関係性が全く違って、新しい視点を持てたんです。

====

スペイン留学時代には、リーグ戦を通じてリアルな公式戦での指導の雰囲気や日々の練習の空気感、1 週間の流れ、シーズン全般の感覚を体験。毎日の練習から試合当日まで、日本では見えなかった指導の流れが見えて、これがめちゃくちゃ勉強になったんです。

当然、日本とは違う、本場の感覚を肌で感じることができました。

====

大切なのは、何らかの方法論に出会った時に、合う合わないを最初から判断しないこと。まず受け入れて、やってみる。半年から 1 年かけて手ごたえを見て、自分のスキルとして身につける。そうしたら次の新しい方法を探して試してみる。このサイクルを繰り返すことで、指導の引き出しがどんどん増えていく感じです。料理のレシピと同じで、1 つしか知らないと毎回同じメニューになっちゃいますからね笑最終的に、自分のキャラクターと選手たちのキャラクターや年齢に合わせて、自分なりのスタイルを調整できるようになります！

====

今日のアクション

- ・近くで開催されるライセンスや講習の情報を調べる
- ・他のサッカースクールに見学を申し込む
- ・指導関連の書籍を 1 冊読んで、何か 1 つ試してみる

====

まずは何でもいいから、できることから始めてみましょう。真似することに抵抗を感じる必要はありません。優れた指導者ほど、たくさんのスタイルを学んで、それを自分なりにアレンジしているものです。

次回は「本質を見抜く真似と表面だけの真似の違い」についてお話しします。

P.S. 完璧を求めず、まずは 1 つ行動してみてください！

それでは、今回も最後まで読んでいただきありがとうございました！

ジュニアサッカー大学

カズ